

日常生活体制整備事業における協議体・生活支援コーディネーターの役割について

1 協議体に求めるもの・目的

○1層協議体（対象地域：大郷町全域）

- ・生活支援 Co の支援（アドバイスやアイデアを生み出すきっかけ）
- ・地域課題の吸い上げと整理
- ・どこで協議することなのか？の整理※
- ・必要な社会資源の創出や発掘
有効的な活用方法の模索
- ・町内各地の取り組み情報の共有
- ・他の市町村の情報の共有
- ・町への提言
- ・ネットワーク作り
- ・今後の大郷町の地域のあり方をデザインする
- ・今後の大郷町について大いに語る



○2層協議体（対象地域：大谷東部・西部・粕川・大松沢を想定）

- ・現場における課題把握
- ・1層協議体への情報提供
- ・支え合い活動の実践
- ・今後の自分たちの地域のあり方をデザインする
- ・今後の自分たちの地域について大いに語る

※1層で協議することと2層で協議することは似ているようで違うことを理解し課題の整理が必要

2 生活支援コーディネーターの役割

「各地域における」

- ・課題の吸い上げ
- ・課題の整理と1層協議体への報告

- ・活動への働きかけとその支援（2層協議体含む）
具体例として
 - ・地域支え合いに関する研修会で啓発をする
 - ・地域住民と共にできる取り組みを考え、その実行を支援する
 - ・情報提供として地域に必要な情報を発信する
 - ・取り組みの取りまとめと情報発信
- 上記以外
- ・協議体を創る
 - ・1層協議体と地域や2層協議体のつなぎ役
 - ・他市町村での取り組みの情報収集
 - ・受けてきた研修のフィードバック
 - ・協議体の運営（招集や進行）
 - ・ネットワーク作り（関係者向け研修会開催などの実施等）

3 生活支援コーディネーターに必要なことや視点

①地域の課題を把握すること※

現在は手法として「住民座談会」をしているが、それ以外でも元気アップ教室のお茶のみや町で実施している事業（例：おやこのへや・ぽっかぽか）などでも課題把握はできる。

②課題の中で「必要な支援は何か？」ということを考えること※

- 1) 課題の中で「住民（自分達）で解決できること。解決しなくてはならないこと」は何か
- 2) 課題の中で、「住民（自分達）では解決できないこと。解決することではないこと」は何か
- 3) 地域における取り組みの支援の中で「手を出すべきもの。放っておくもの」は何か

③住民に「気づきを生み出すこと」

自分達の限界があるように行政や関係機関も限界がある。それをいかにお互いが補完できるかという視点

「なりたい！こうあってあってほしい！」と思うこれからの地域について住民に考えてもらうこと。その中で自分達は住民として何ができるのか。「誰かにやってもらう。」ではなく自分が（自分たちが）できることをしていかななくてはならないという気づきを生み出す。

④自分を見失わないこと。周囲に理解してもらうこと。

主役の違い

- ・日常生活体制整備事業の推進の主役は生活支援コーディネーター
- ・地域の支え合い活動の実施の主役は地域住民

脇役として

- ・生活支援コーディネーターの後押しや支援をするのが「1層協議体」の役割の一つ
- ・地域の支え合い活動の後押しや支援をするのが「生活支援コーディネーター」や「ネットワーク化された各関係機関」

上記のことを説明し、理解されないと「この事業は生活支援コーディネーターがすることなのに、なぜ私たちがやらなければ(手伝わなければ)ならないのか?」という疑問が払拭できない。疑問が払拭できないと行動につながらない(動かない・協力を得られない)

※協議体の役割でもあります

4 1層から2層協議体への流れ

- ① 各層において地域の課題を整理する(1層協議体)
 - ・町全体で考えなければならないもの(1層協議体及び町へ提言)
 - ・各地域で考えなければならないもの(地域性による課題)
(2層協議体)
- ② 情報のやり取り
 - ・1層協議体に挙げる情報(2層から1層へ・行政から1層へ)
 - ・2層協議体に提示する情報(1層から2層へ)
- ③ 実践
 - ・1層の場合(社会資源の開発など)
 - ・2層の場合(その地域に合った方法で具体的な実践)
- ④ 検証・評価
 - ・1層協議体で取り組みの進捗状況の確認など

～例～

① 1層協議体

毎月20日のおおさと福祉の日にあわせて各地域でサロン活動を実施してはどうか?(手法の例示なども併せて行う)

② ①をうけて

2層協議体で具体的な実践の手法(各行政区単位では大変だから順番に毎月地区を変えて実践するなど)を検討し、実施

③ ②の実践から

1層協議体で、各地域での取り組み状況の確認・課題整理・改善

5 協議体メンバー構成

○具体的なメンバー選考に入る前に

- ・いわゆる「わいわい・がやがや」についてよく考える。

1層協議体ではなかなかできないという声が多い(情報交換会において)

→なぜできないのか?理由を考える

- ・しゃべれる雰囲気ではない(いったいなぜなのか)

発言に責任が持てない どうしゃべったらいいのか分からない

緊張する そもそも興味が無い 意見が無い 発言しても何

も変わらないという意識 聞いてもらっている感が無い

楽しくない 一人の意見が強すぎる 押し付けられる

意見の共感と共有が無い 否定される
2層協議体は楽しくできているという声もよく聞く

→なぜできるのか？理由を考える

- ・しゃべれる（しゃべっちゃえ）という雰囲気がある

解決策

すでに協議体を設置されている生活支援 CO に聞いてみる。

すでにまとめなくても理由はわかる？←知ってても言えないだけ。

これらを整理してメンバー選考にあたるべき。上記の役割を理解し、わいわいがやがや（自分の意見やアイデアをどんどんしゃべる）できる場にするためには誰が適任なのか。

具体的なメンバー（団体・所属）

- ・農協 ・商工会 ・シルバー人材センター ・ウイング ・郷和荘
- ・社協 ・包括 ・めるくまーる ・社会教育課 ・まちづくり推進課
- ・保健福祉課

2層協議体

○4地区に分けた協議体（SCが主に関わる）

構成員 区長・民生委員をはじめとする地区役員やボランティア

6 協議体メンバーに求められるもの

- ・生活支援体制整備事業を理解し協力的であること。
- ・課題を整理すること。
- ・協議体で意見を出し尽くすこと。ただし批判・否定はしないこと。（疑問は解決する。）
- ・分からないことは素直に言う。分からないことが周りの気づきにつながる。
- ・得意不得意なところ、強みや弱みをお互いが理解する（お金はある程度出せるが人は出せない。人は出せるがお金はない。アイデアはあるけど実行することができないなど。）
- ・1層協議体で協議された課題からの実践において、各々の団体に求められている役割を理解し具体的な実践を行う。
- ・1層協議体参加メンバーではだけでは、具体的実践ができない。又はより有効な活動ができる関係機関や団体が存在する場合その関係機関や団体とのネットワークづくりをすすめ、1層協議体で解決できることのバリエーションを増やす。
- ・上記の関係機関の情報を共有しておく
- ・丸投げしない（行政・2層・コーディネーターに対して）必ずアイデアや意見をつける。

